

小頭岳

平成22年10月13日(水)
新合地区振興会
振興会便り
文責:佐々木 元
NO. 14

市長と語る会に参加を！

市長と語る会が下記のとおり計画されております。合併後の「まちづくり」等について成果や不満や要望等積極的に参加し意見を述べ市政に反映できるようにしましょう。
・期日：平成22年10月20日(水) 午後7時30分～ ・場所：一町田公民館
・対象者：河浦地区住民 ・市からの出席者：市長、秘書課長、秘書課職員

長寿の秘訣

◎好き嫌いなく何でもよく食べる。
◎90歳位までゲートボールをしてよく体を動かしていた。
◎ほがらかで、くよくよしない。
◎昔のことをよく記憶している。
吉田 サカエさん(立原区其河内)96歳に聞きました。

がんばってます⑦

上津留区「大塚松美さん」

400年の伝統を守り続ける“わらじ”作り

もう収穫を感謝する秋祭りも近いと思いながら黄金色に実った畦道を歩いて大塚一二三・松美さんご夫妻を訪ねた。

松美さん(78才)は秋祭りの行列に欠かせない“わらじ”作りを継承されている数少ない一人である。小屋には昨年作ったわらじが下げてあり、その下で一番基本となる一本の小縄紐を足にかけ編み始めたばかりの所で話を聞いた。ふつうの草履は小学生の頃から作っていたが“わらじ”は7～8年前、警固をしていた大塚宏さんと仁田窪夏雄さんに「鳥毛のわらじが足りないで作ってほしい」と言われ、小川潮さんや大久保権平さんに習いながら作ったのが最初だという。それ以来、秋祭りには子供三人にはずと作って履かせ、他の人にも不足分は作ってやっているという。“わらじ”作りの難しさは①縦紐(縄)作り②わらが昔の稲と比べて短くなったこと③左右を同じ形にする。(名人と言われていた故・柿本武徳さんも苦労されたとのこと)④かかとの部分のわらの結び方→アキレス腱の部分まで届くようにする)他に足の親指がわらに負けるので靴下を履いたり、手にはハンドクリームをぬりながら作業されていた。わらを打って最後には足が痛まないよう障子紙をまいて完成まで1時間半はかかるが、根づめて出来ないので午前中一足作り、他の仕事をして午後また準備を始めるという。聞いていると相当の根気と技術がいると感じた。今でも作り続けているのは、子供が「お母さんのわらじは履きやすか」と喜んで履いてくれることと、昔は一軒一軒自分の家で作ってお祭りに参加させていたとの思いが今も心にあり、それをできるだけ守ってほしいという気持ちからだという。



津留神社は寛永8年(1631年)三代将軍家光の頃創建され400年近くの永きにわたり先祖代々守り伝えられてきたものである。特に祭りの行列は昔のままの形式で続けられている、九州でも貴重なものと高く評価されている。

そして、大塚さん一家は一二三さんが長い間神役として、息子さん達は鳥毛等、神々を祀る伝統文化継承の氏子一家なのである。控え目ではあるが上品で美しい松美さんの顔立ちに伝統文化を守り伝えていこうという心意気を感じ尊敬と感謝の意でいっぱいになった。

* これからの行事予定 *

- ◎「健康体操 毎月第1、第3木曜日」19:30～ **初めての人でも参加OK!です。**
- ◎「新合地区駅伝会」11月21日(日) ◎「新合小フェスタ」11月28日(日)
- ◎「立原神社祭り」11月3日(水) ◎「津留神社祭り」11月14日(日)
- ◎「平床神社祭り」11月21日(水) ◎「市ノ瀬神社祭り」11月21日(日)

祝敬老・金婚式

9月12日(日)

家族や地域のために頑張ってくれた70歳以上の方(244名)に長寿をお祝いし、感謝と敬意を示す新合地区あげでの敬老会を実施しました。

参加者は130名(対象者の53%参加)でしたが、各地区の工夫と努力のあとが見られる出し物や小学校、保育所、ピノキオ、大正琴、日本舞踊、新合職員の出し物などで楽しんでもらいました。また、金婚式を迎えられた4組の方にお祝いの伝達式も行いました。

帰りには婦人会の心づくしのお祝いの弁当(赤飯)が配られました。

今年金婚式を迎えられた4組のご夫婦です。

小川潮・光代夫妻、大久保惣八・ミシ子夫妻、大塚 明吉・ムツエ夫妻、丸塚 英夫・高恵夫妻 **おめでとうございます。**



注文 335kg ふるさと宅配便開始!

いよいよふるさと宅配便の注文受付開始です。10月1日から今日(10/7)までの注文者は19名、合計335kgです。15日が受付〆切です。これからも期待できます。取り組みが進むにつれ、いろんな課題も出てきますが頑張りたいと思います。ご支援ご協力を!10月12日(火)には地元生産者(米提供者)への説明会を実施しました。



～注文のこえ～

- ◎新合の二めが届くのを楽しみにしています。(東京)
- ◎毎月送るのを決めて送ってくださることを希望します。(兵庫)
- ◎ふる里の新合米を一度食べてみたいです。美味だったら続きます。(愛知)

『道路工夫物語』 (7)

～ 仕事への熱い思い ～

ここで最初の頃の道具の紹介。○スッコフ○かま、トウガ○ツルハシ○カキ板、ジョレン、大八車→リヤカー等であった。(○は通常持参)

昭和30年代は今の国道はもちろん砂利道。天草五橋が開通した昭和41年でも両上りに車で通ると船の舳先に乗っているようなものであった。水しぶきは飛ぶ、凸凹道でゆれる、車の底はこすってしまう。日常はそんな道を補修するのである。惣八さんが仕事をするうえでの信条があった。「道路は首相も知事も一般の人も通ったり荷物を運んだりする大切なもの。自分の担当する道路が一番いい状態を保ちたい。」との一念で仕事を続けたという。ある時、道路の中央に砂利を集めた道にしていたらバスの運転手から苦情があったので一晩徹夜して平らな道にしたとのこと。極めつけがある。「俺を殺してから通れ!」は次回でのお楽しみ!



～報告～

- ◎「新合小・新合地区合同運動会」9月19日(日)
優勝 小学校=白団
地区=上津留B
- ◎「新合保育所運動会」
10月2日(土)
- ◎「河浦町民球技大会」
10月3日(日) 屋外競技雨天中止
成績 新合地区 総合2位
2位 男子バレー・女子バレー・
男子ミニバレー・卓球
- ◎秋の交通安全キャンペーン参加 9月30日(木)

